児童家庭支援センター
ファミリーステーションいなみえん通信
発行：社会福祉法人 伊奈美園　　発行日：令和４年２月吉日【第 29 号】

地域のカウンセラーとして

心理主任：浅田（あさだ）　伸史（のぶふみ）

現在のファミリーステーションいなみえんは、心理職の割合が多く提供するサービスも心理的な側面からのサポートが中心である。地域の中で臨床心理に関わるサポート資源が他の地域に比べて少なかったことから、センターの特色としてアピールさせて頂いている。

ところで、心理職・カウンセラーの役割とは何だろうか。その大きな仕事として、平成 27 年に制定された公認心理師法の中でも多職種との連携がうたわれている。心理的な視点からの相談者への支援について、個別の相談・カウンセリングの中だけでなく支援の輪の中で共有し相談者自身も含めたネットワークの中に提供していくことが期待されているのだ。

当センターでも地域との連携を進めていくことを目指して、平成 24 年に加賀市子ども支援連絡会、山代地区子どもを育てる会に参加することとなった。そこでは、先述のように地域に心理職が少なかったこともあり、センターの参加は歓迎された。しかし、最初から連携がうまくいっていたわけではない。このことは、どのような連携や支援の場合でも同じかもしれないが時間を掛けながら次第にスムーズにやり取りが出来るようになっていった。

以前は多様な問題や困り感を抱える児童生徒に対して、保護者や関係者から『カウンセリング』を希望されることが多かった。もちろん、センターや心理士として期待されることは光栄であり、出来る限りの支援をしていきたいとの思いは当然のことである。しかし、そこで語られる『カウンセリング』とは何なのか、正直戸惑うことも少なくなかった。困っている人に『カウンセリング』を行えば気持ちが楽になって悩みも解決する…。

それは、決して完全な間違いではない一方で、正解でもない。個別のカウンセリングが役に立つ方もいれば、早急に精神科などの医療機関に繋ぐことが肝心な方もおいでる。定期的に、専門家と言えるカウンセラーの『カウンセリング』が役立つ子どももいれば、日々顔を合わせる家族や先生との関係で自分からは声を掛けられないけど一言声を掛けられるだけでほっとして元気になっていく子どももいる。

これらは当たり前のようなことであるが、家族や支援に携わる方々が日々の関わりの中で一生懸命であればあるほど、それがなかなかうまくいかない時に特別な『カウンセリング』は魅力的に映るようだった。

しかし、多くの支援を通じて『カウンセリング』が直接役立つ場面だけでなく、ちょっとした視点の変化が相談者や困り感を抱えた子ども達の理解に役立つことを実感してもらえるようになってきたと感じている。

はじめは問題行動としか見えない子どもの行動

をよく見て関わっていくと、それが問題行動というよりも、子どもなりの環境に合わせて対処している手段だったりすることは珍しくない。よく言われる「不登校」が「学校への不適応」である一方で子ども自身の成長の機会となっている場面などが分かりやすい例として挙げられるかもしれない。

いわゆる『カウンセリング』だけではなく、心理士としての視点を求められる機会が増えて来たことが、児童家庭支援センターの心理支援が地域のものとなってきた証拠と言えるだろう。これからも、地域の支援機関・支援者のみなさんと協力して地域のカウンセラーとしての役割を担っていきたい。

3階プレイルームではカウンセリングやプレイセラピーをしています♪（当センター外観）

思春期の準備中

相談員：中村（なかむら）　真依（まい）

以前参加した学習会にて『思春期の心』について学びました。思春期の子ども達は、今まで親や先生といった大人から教わってきたことを守るだけでは上手くいかない場面に直面し、新しい行動や価値観を身につけて行こうとします。また、大人からの評価より仲間からの評価を気にする『同質性の希求』が見られる時期でもあるようです。思い返せば、友達の持ち物や服装を自分のものと比較して“皆になんて思われるかな”と気にしたり、荒い言葉で反抗的な態度をとってしまったりなど皆さんも経験があるのではないでしょうか。言動を正してくる周りの大人とは衝突も多くなり、大人は子ども達に対して“接し方が分からない、扱いづらい”と混乱してしまう複雑で不安定な時期です。

私は当センターの相談員として勤務する傍ら、月に数回、同法人内の学童を訪問し宿題や遊びを見守っています。学童訪問を重ねる中で感じたことは、小学生の子ども達は今まさに複雑な思春期を迎える準備段階にいるということです。通所を開始した当初は周りの様子を伺っていた児童が徐々に大胆な行動をするようになったり、似たようなタイプの子同士で固まって遊んだりおやつを食べたりという姿が見られます。支援側としては大胆な行動を危険回避のため抑制したり、固まらず他の友達とも遊ぶよう促したりしてしまいがちです。しかし、先日の学習会を受けて以来、これらの行動は健全な思春期を迎える上で大事な準備段階なのではと柔軟な考えで捉えられるようになりました。

目に見える現象（子ども達の言動）をただ抑制するのではなく、背景やきっかけにも目を向け、“何でそうしようと思ったのか、何故ダメなのか”と子ども達の声を聴き一緒に考える時間を大切にしたいと思います。きっと自分ではどうにもならない感情や、学校や家庭での憂鬱な出来事など十人十色の“本当は聴いてほしい思い”があると思うからです。思いを吐露したり、好きな遊びで思いっきり発散したりと、学童が学校と家庭のクッションのような存在になれればと思います。指導ではなく支援をしていく。試行錯誤の日々が続きます。

こども園訪問

臨床心理士：森川（もりかわ）　知（とも）美（み）

いなみえんには、同法人内に幼保連携型認定こども園 キッズランドいなみえんがあります。ファミリーステーションいなみえんの心理士が定期的に訪問して保育教諭が日頃気になっている子どもの様子を心理士の視点から観察し、その子について共有し合う『こども園訪問』を行っています。この活動は平成 29 年から始まり、コロナ禍の影響で中断した時期もありましたが今年度で 5 年目を迎えました。何年間も継続して関わってきた子もいれば、その時々でこども園の保育教諭が対応に迷っている子がいることもあります。その都度の保育教諭のニーズに合わせ活動しています。

こども園訪問では、毎回多くの気付きを得ています。心理士をしていると子どもと一対一で関わることが多いですが、こども園という現場では保育教諭－子どもたちという対複数の関わり、また子ども同士の関わりなど集団での関わりの中で子どもの様子や特性などを観察することになります。一対一での関わりの中では気にならない子でも、集団の中では気になる子も多くいます。このような子に対しては“（家庭などで）じゅうぶんに甘えられていないのかな”“一対一での関わりを必要としているのかな”などと考えることができます。しかし、現場では他の子どもたちもいる上に日々の業務もあるため保育教諭に“もっとこの子と一対一の時間を増やしてほしい”とお願いするのはとても難しい事であると自覚すると同時に申し訳ない気持ちになります。そうならないためにも、子どもの様子を観察・考察する前に対応に迷っている保育教諭の状況や感情に寄り添い、その上で子どもについて共有し合い、どのようなことをすればより良い関わり（環境調整や特性理解など）ができるか保育教諭と心理士で一緒に考えていくという姿勢を心がけています。保育教諭と心理士、お互いの分野の専門家という立場からお互いを尊重し合い、良い関係性を築き、それを子どもたちに還元できたらと思っています。

相談のご案内

ご連絡は当センターまで♪

【相談ダイヤル】
日時 月曜日～土曜日９：００～１７：００
０７６１-７５-８８８９

【山代出張相談】
日時 毎月第２金曜日１４：００～１６：００
場所 山代よりみちハウス

曜日	一般相談担当	心理担当（要予約）	
	中村	浅田	森川
月	9：00-17：00		9：00-17：00
火	9：00-17：00		13：00-21：00
水	9：00-17：00		13：00-21：00
木	9：00-17：00		13：00-21：00
金	9：00-17：00		9：00-17：00
土	9：00-14：30	10：00-17：00	9：00-14：30
日			

「令和４年寅年の始まり」

所長 ： 田中（たなか） 孝（たかし）

標高 2,702 メートルの霊峰白山が冠雪し真っ白で雄大な姿を見せてくれる季節がやってきました。晩秋から冬にかけて空気が乾燥して晴れた日には、頂上の御前峰がすっきりと見える日が多くなります。児童養護施設の 6 階屋上から見ると、加賀市内の田園風景から工事中の北陸新幹線架橋、そして小松市の 1,000 メートル級の山々の上に乗っかるかのように白山がそびえています。都市伝説の類かもしれないが、「白山があるから石川県は台風から守られて災害が少ない」と言う人もいるほど、何かと守られ感がある山のように思います。

伊奈美園屋上から白山を眺める（令和 3 年 11 月末に撮影）

さて、令和４年寅年が始まり、新年度が近づいています。中部地区児童家庭支援センター実務者研修会が当県で開催予定のため、県内実行委員会がすでに 2 回開かれました。集合型研修の形態で 10 月開催の準備を進めています。コロナ禍がおさまって、予定通りに顔を合わせて直接話せる研修会が出来ればいいなと願っています。

今後の予定

2 月 14 日（月）
- 山代地区子どもを育てる会（月定例）

2 月 15 日（火）
- 加賀市子ども支援連絡会（月定例）

2 月 18 日（金）
- 山代出張相談（月定例）
- 親の会（月定例）

子どもと家庭の悩み　話してみませんか？

児童家庭支援センター　ファミリーステーションいなみえん

〒922-0412　　石川県加賀市片山津温泉井 6 番地

TEL 0761-75-8889　FAX 0761-74-1461　E-mail center@inamien.jp　HP http://www.inamien.jp